

『町田市一般廃棄物資源化基本計画中間答申』 意見書

町田市政を考える会・草の根

巽 富士子

より現実的な基本計画を目指して出された中間答申だと思います。特に、生活様式を変えない限り減らすことの出来ない、一番身近で、扱いの難しいプラスチックの問題に果敢に向き合って頂いたことは有難く、また、協力して下さいました市民の方々にも感謝しております。

乳幼児、学童、若者、壮年、寝たきりの高齢者等など42万市民が、家庭、学校、勤務先、病院、外出先等のあらゆる場面で排出する廃棄物を対象に「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とした今回の答申を拝見し、ごみ問題に関わってきた市民として、身の引き締まるものを感じました。

町田市は、「ごみゼロ市民会議」以降、すでにリサイクル広場の開設、電動生ごみ処理機の導入と普及、生ごみの資源化、「町田産肥料」を使った地産地消のモデル実験、ビデオテープの回収、イベントごみの削減、インクカートリッジの回収で拡大生産者責任を問う等、数々の実績を築いてきました。

今後、大局的に捉えれば、**建設**（マンションに電動生ごみ処理機のスペース確保の義務付け）、**町づくり**、**高齢者福祉**（地域で資源を回収する中で、地域社会とのつながりを持ち、安全、安心な街づくりの為のコミュニケーションの場作り）、**教育**（解り易い子供向けリーフレットの作成、実体験）、**農業**（地場産農産物の普及、直売）、**商工**（過剰包装の削減、レジ袋の有料化、周辺市との連携）など、環境資源部にとどまらない規模で展開しなければならない事だと思います。

ごみ問題は、市民の生活、生き方の見直しでもあると思います。市民自身が行うべきことは何か、行政（国、都、市）が取り組むべきことは何かを明確にし、ごみをいかに減らすか、いかに有効に活用するか、いかに安全に処理するかの議論を期待しています。

多くの自治体も市民も、数十年にわたり、大なり小なりごみ問題に取り組ん

できました。その過程に於いて、単なるかけ声や旗振りで持続的な成果が期待出来る問題でない事は、これまでの経験から十分認識している筈です。日々の暮らしを全くストップさせない限り、ごみを無くすことは出来ない事も理解している筈です。また、減量の必要性も承知している筈です。この事を念頭に置き、行政と市民が協働して取り組むことは何なのか、私達も考えて行きたいと思えます。

既に満杯となった最終処分場の現状、焼却炉の老朽化、広域で解決しているごみ処理の現状をこれまで以上に市民に周知し、理解と協力を求め、基本計画が進行することを願っています。